

# インパクト証明書における指標と 情報開示基準等との接続について

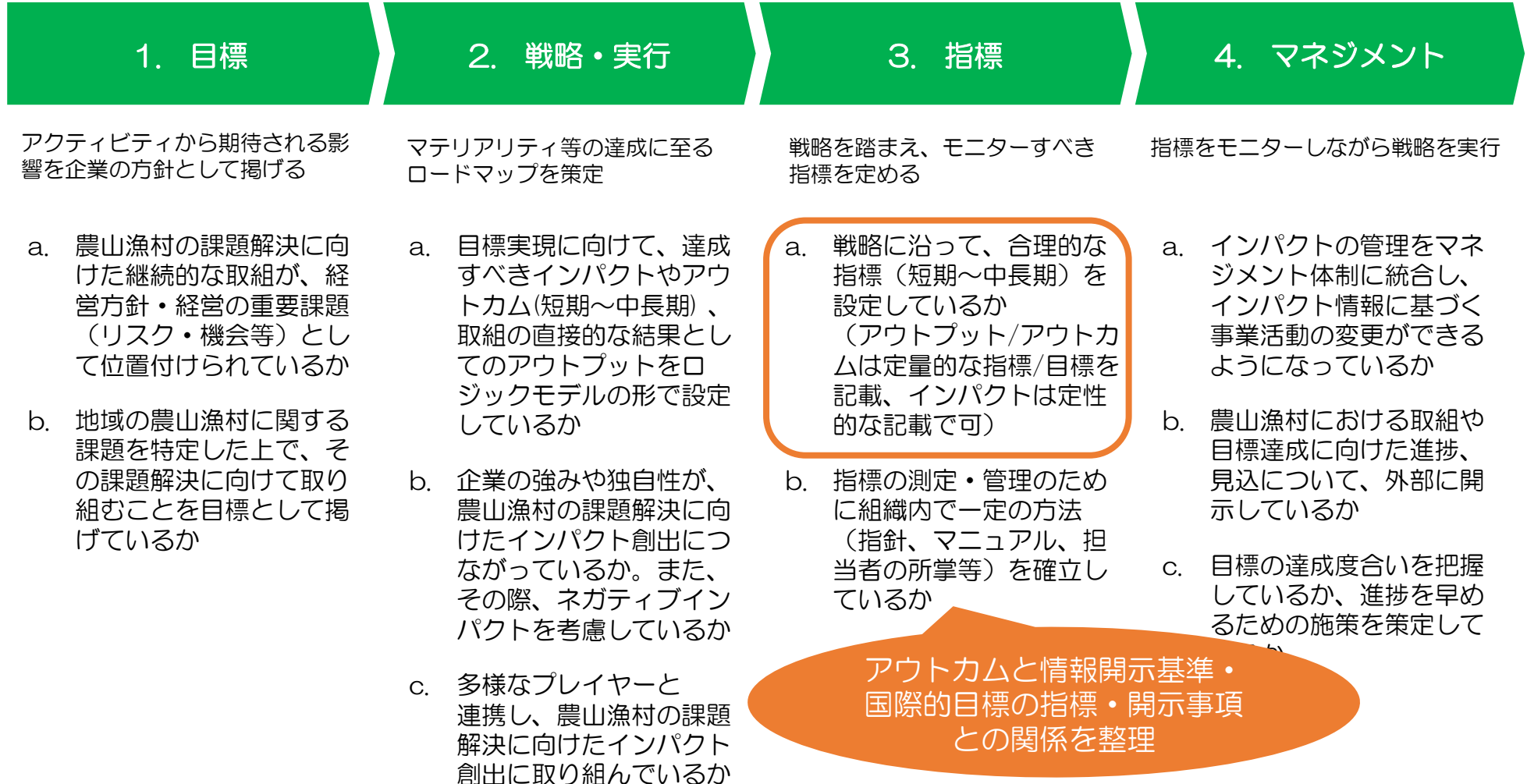
## 背景

- 「農山漁村における企業によるインパクト創出促進・証明書制度創設検討会」では、これまで取組・インパクト証明書の証明対象、評価基準、申請方法等の設計を行ってきた
- 特に、インパクト証明書では、企業等による取組が特定の社会・環境インパクトの創出に繋がるものであることを、IMMプロセスが確立されているか等専門的な見地から個別に証明するために、取組に関連する「指標」を短～中長期で設定することを要件とする予定
- 企業等による農山漁村への参入・継続的取組を後押しするためには、SSBJやTNFD等の非財務情報開示基準やGBFやSDGs等の国際的目標への接続を明示することが有効であると考えられる

本資料の  
位置付け

- 本資料では、IMMプロセスにおける「指標」に焦点を当て、SSBJやTNFD等の非財務情報開示基準やGBFやSDGs等の国際的目標への接続方法について整理を試みる
- 具体的には、以下2つのロジックモデルを対象として、アウトカムに対応する非財務情報開示基準・国際的目標の指標・開示事項との関係を検討する
  - ✓ ロジックモデル：①通いによる農林水産業への参画・コミュニティ維持の取組、②専門作業を行うロボット等のスマート農業技術の開発・導入の取組
  - ✓ 情報開示基準（SSBJ、TNFD、GRI）、国際的目標（GBF、SDGs）

## SDG Impact Standards・ロジックモデル・IMP等を参考に評価基準案を策定



戦略に沿って、合理的な指標（短期～中長期）を設定しているか  
（アウトプット/アウトカムは定量的な指標/目標を記載、インパクトは定性的な記載で可）

アウトカムと情報開示基準・国際的目標の指標・開示事項との関係を整理

取組のアウトプット・アウトカムに対応する指標・目標を記載する。また、非財務情報開示基準との接続を見据え、各指標・目標が対応する情報開示基準を記載する（任意）。

「農林水産物のブランド化や付加価値向上を図る取組」における指標・目標（一部抜粋）の例

例	1			2		3
	インパクト	アウトプット・アウトカム		指標	目標	対応する非財務情報開示基準等（任意）
	分類	概要				
	地域経済の活性化	アウトプット	農林水産物のブランド化	ブランド化した商品数	◇個/年の商品をブランド化する	TNFDにおける〇〇
	気候変動の緩和	アウトプット	取組からJクレジットの発行	発行したJクレジット数	□個/年のJクレジットを発行	SSBJにおける〇〇、 CSRDにおける〇〇
	地域経済の活性化	アウトカム（短期）	観光等による交流人口の増加	◆◆市の交流人口数	◆◆市の交流人口増加に転じさせる	TNFDにおける〇〇、 GRIにおける〇〇
	農山漁村の持続可能な生活環境の維持	アウトカム（短期）	ブランド化による地域外の企業との連携の実現	◆◆市外の企業との連携件数	◆◆市外の企業との連携の増加	TNFDにおける〇〇
	ウェルビーイング向上	アウトカム（中期）	農林水産業所得の増加	◆◆市の農林水産事業者の所得	◆◆市の農林水産事業者の所得向上	TNFDにおける〇〇
	農山漁村における災害レジリエンスの向上	アウトカム（長期）	地域人口減少の抑止に伴う公的なインフラサービスの維持・拡大	◆◆市の公的インフラサービス投資額	◆◆市の公的インフラサービス投資拡大	TNFDにおける〇〇、 GRIにおける〇〇
			・			
			・			
			・			

各指標・目標について、ロジックモデルより対応するインパクト・アウトプット・アウトカムを記載

アウトプット・アウトカムを達成するための指標・目標を記載（アウトカムはアウトプットベースでの指標設定でも可とする）

情報開示基準との接続を見据え、各指標・目標が対応する開示基準を記載（任意）

テーマの異なる2つのロジックモデルを対象として、アウトカムに対応する非財務情報開示基準・国際的目標の指標・開示事項との関係の整理を試みる。

## ロジックモデル

例として、テーマの異なるロジックモデル（以下2つ）を対象として、アウトカムと情報開示基準・国際的目標の指標・開示事項との関係の整理を試みる

- ① 通いによる農林水産業への参画・コミュニティ維持の取組
- ② 専門作業を行うロボット等のスマート農業技術の開発・導入の取組

## 非財務情報開示基準、国際的目標

生物多様性や地域経済に関連する以下の情報開示基準、国際的目標について、左記のアウトカムと指標・開示事項との関係の整理を試みる

- 情報開示基準
  - ✓ SSBJ  
(IFRS S2号「気候関連開示」)
  - ✓ TNFD
  - ✓ GRI
- 国際的目標
  - ✓ GBF  
(昆明・モンリオール生物多様性枠組)
  - ✓ SDGs

自然資本や地域経済に関連する情報開示基準・国際的目標の指標・開示事項との関係について検討

分類		概要
非財務 情報開示 基準	SSBJ	<ul style="list-style-type: none"> <li>日本のサステナビリティ開示基準であり、ISSB基準との整合を図りつつ国内制度に適合した情報開示を求める</li> <li>投資家向けの比較可能性と信頼性を重視し、一般基準のほか、気候関連を中心にガバナンス、戦略、リスク管理、指標・目標に関する個別基準に係る開示を体系的に要求</li> </ul> <p>※本資料における「該当なし」は主に個別基準（例：気候基準）への対応状況を示すものであり、一般基準における関連性を否定するものではない</p>
	TNFD	<ul style="list-style-type: none"> <li>自然資本に関するリスク・機会を企業が評価・開示するための国際的枠組み</li> <li>LEAPアプローチにより自然との関係を特定・評価し、場所依存性の高い情報や生態系への影響を定性的・定量的に開示</li> </ul>
	GRI	<ul style="list-style-type: none"> <li>経済・環境・社会への影響を幅広く開示するための国際的スタンダード</li> <li>ダブルマテリアリティの考え方に基づき、企業が社会・環境に与える影響を中心に多数のテーマ別指標を提示</li> </ul>
国際的 目標	GBF	<ul style="list-style-type: none"> <li>生物多様性条約の下で採択された2030年までの目標で、自然損失の回復を目指す枠組み</li> <li>「30by30」など具体的な数値目標を含み、政策や企業の戦略への反映を促す</li> </ul>
	SDGs	<ul style="list-style-type: none"> <li>国連が定めた2030年までの持続可能な開発目標で、貧困、環境、経済など17分野を包括的に扱う共通の国際的目標</li> <li>169のターゲットと指標から構成され、社会的貢献やESG活動の方向付けに活用される</li> </ul>

情報開示基準との接続においては、IMMプロセスにおける指標が企業の「リスク・機会」に関する指標と紐付くことが重要

## ガバナンス

自然関連の依存と影響、リスク・機会に係る組織のガバナンスを開示

- A) 自然関連の依存・影響、リスク・機会についての取締役会による監視体制の説明
- B) 自然関連の依存・影響、リスク・機会を評価・管理するうえでの経営者の役割を説明
- C) 自然関連の依存・影響、リスク・機会に対する組織の評価と対応において、先住民・地域社会・影響を受けるその他の利害関係者に対する活動および取締役会と経営陣による監督について説明

## 戦略・実行

自然関連のリスクと機会が、組織の事業、戦略・財務計画に与える重要な影響を開示

- A) 組織が特定した短～中期の依存・影響、リスク・機会を説明
- B) 自然関連の依存・影響、リスク・機会が組織の事業・戦略・バリューチェーン・財務計画におよぼす影響および検討されている移行計画や分析を説明
- C) 組織の戦略のレジリエンスについて説明
- D) 優先地域に該当するバリューチェーンの上流・下流を開示

## リスク・インパクト管理

組織が自然関連の依存・影響、リスク・機会をどのようなプロセスで特定・評価・管理しているかを開示

- A) 直接操業・バリューチェーンにおける自然関連の依存・影響、リスク・機会を特定・評価するための組織のプロセスを説明
- B) 自然関連の依存・影響、リスク・機会を管理するための組織のプロセスを説明
- C) 自然関連の依存・影響、リスク・機会を特定・評価・管理するためのプロセスが組織の統合的リスク管理においてどのように統合されているか説明

## 指標・目標

自然関連の依存・影響、リスク・機会を評価・管理する際に使用する指標・目標を開示

- A) 自社の戦略とリスク管理プロセスに即し、自然関連のリスクと機会を評価・管理する際に用いる**指標**を開示
- B) 組織が自然への依存・影響を評価管理する際に用いる**指標**を開示
- C) 組織が自然関連の依存・影響、リスク・機会を管理するために用いる**目標**および**目標**に対する**実績**について説明

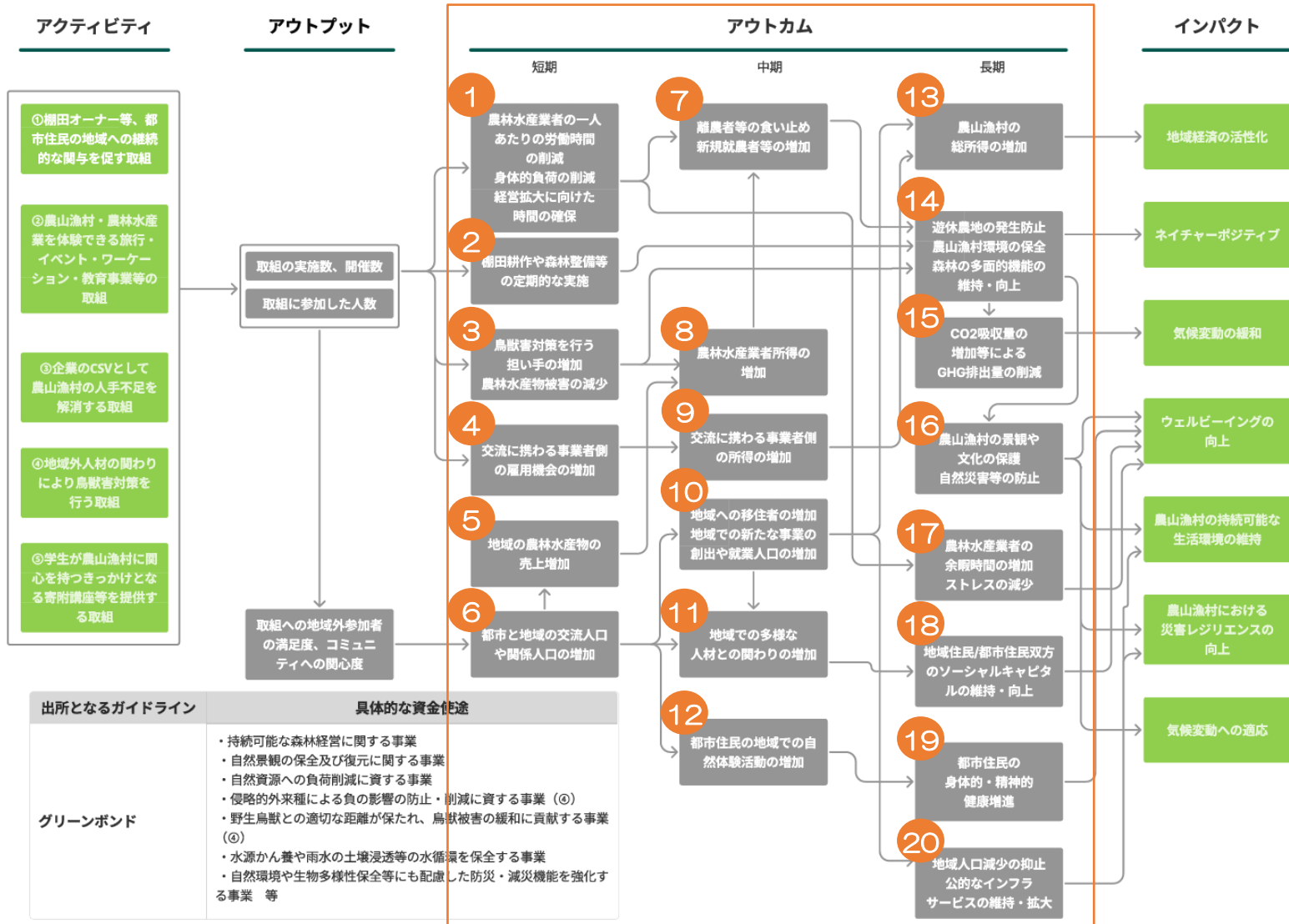
「リスク・機会」に関する指標であることが重要

農山漁村の関係人口増加や地域経済活性化、生産性向上に資する取組に関するロジックモデルを例として採り上げる

#	ロジックモデル	概要
1	通いによる農林水産業への参画・コミュニティ維持の取組	<ul style="list-style-type: none"><li>都市住民や企業が農山漁村の活動に参画し、労働力確保や交流促進、所得向上を通じて地域の活力を高める取組を示す</li><li>最終的に、環境保全、災害レジリエンス向上、ウェルビーイング向上など持続可能な地域社会の実現につなげる取組事例</li></ul>
2	専門作業を行うロボット等のスマート農業技術の開発・導入の取組	<ul style="list-style-type: none"><li>ロボット等のスマート農業技術の開発・導入により労働力不足を補い、生産性向上や作業負担軽減を実現する取組を示す</li><li>農家所得の向上や担い手確保、地域への移住促進を通じて、農村の持続可能性向上、環境保全、災害対応力強化につなげる取組事例</li></ul>

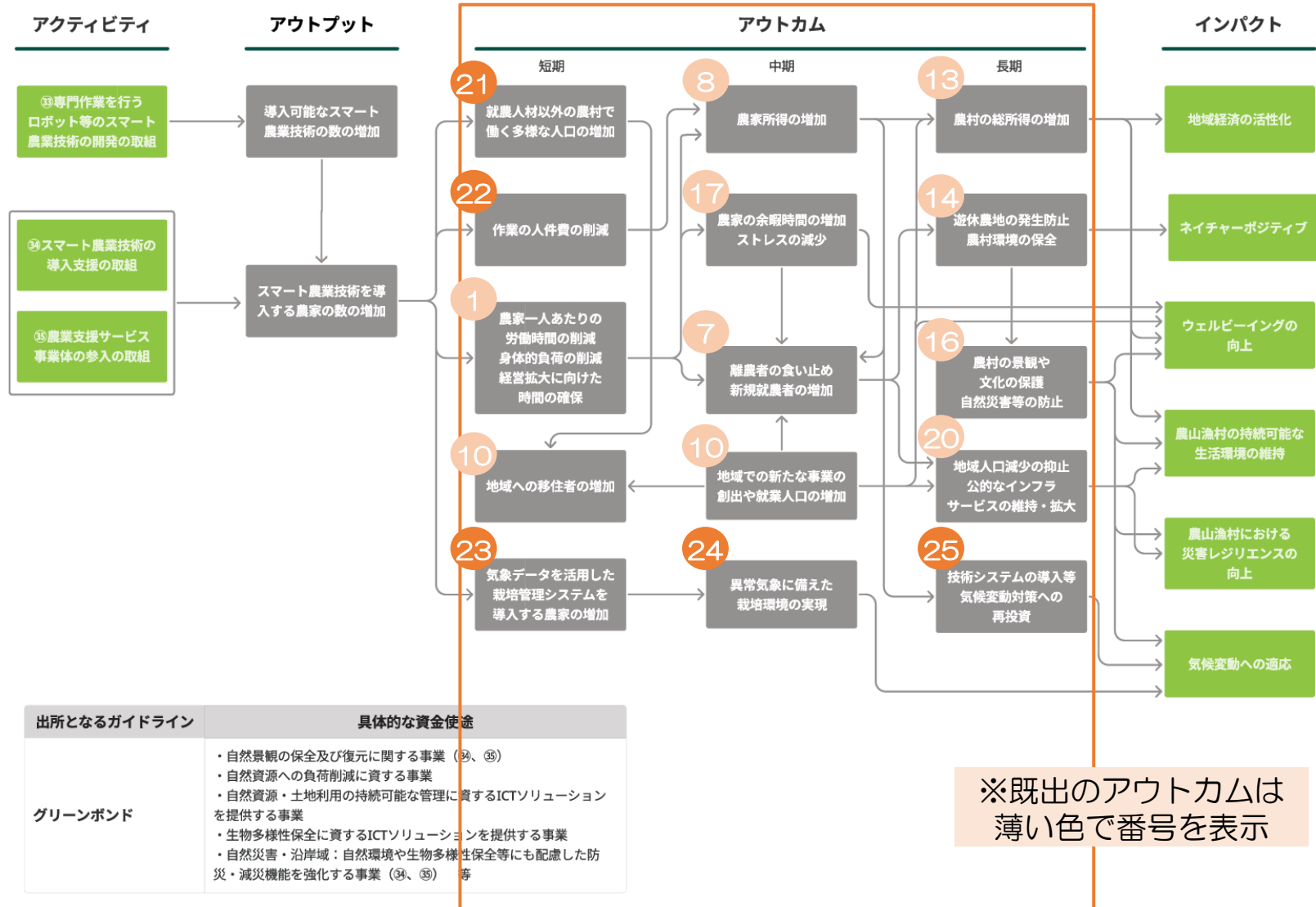
以下のロジックモデルについて、アウトカムと情報開示基準・国際的目標の指標等との関係を検討する

## 1. 通いによる農林水産業への参画・コミュニティ維持の取組



以下のロジックモデルについて、アウトカムと情報開示基準・国際的目標の指標等との関係を検討する

## 19. 専門作業を行うロボット等のスマート農業技術の開発・導入の取組



	アウトカム	情報開示基準			国際的目標	
		SSBJ	TNFD	GRI（開示事項）	昆明・モントリオール生物多様性 枠組 23ターゲット	SDGs
短期	1 農林水産業者一人あたりの労働時間の削減 身体的負荷の削減 経営拡大に向けた時間の確保	該当なし	該当なし	<ul style="list-style-type: none"> <li>・開示事項 403-6 労働者の健康増進</li> <li>・開示事項 403-9 労働関連の負傷</li> <li>・開示事項 403-10 労働関連の疾病</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・10.1 生産的かつ持続可能な農業が行われている農地面積の割合</li> <li>・10.2 持続可能な森林管理に向けた進捗状況</li> <li>・B.1 生態系が提供するサービス</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2.4.1 生産的で持続可能な農業の下に行われる農業地域の割合</li> <li>・8.2.1 就業者一人当たりの実質GDPの年間成長率</li> <li>・8.5.1 労働者の平均時給（性別、年齢、職業、障害者別）</li> <li>・8.5.2 失業率（性別、年齢、障害者別）</li> </ul>
	2 棚田耕作や森林整備等の定期的な実施	該当なし	該当なし	<ul style="list-style-type: none"> <li>・開示事項 403-6 労働者の健康増進</li> <li>・開示事項 304-3 生息地の保護又は復元</li> </ul>	該当なし	<ul style="list-style-type: none"> <li>・3.4.1 心血管疾患、癌、糖尿病、又は慢性の呼吸器系疾患の死亡率</li> <li>・3.4.2 自殺率</li> </ul>
				<ul style="list-style-type: none"> <li>・開示事項 413-1 地域コミュニティとのエンゲージメント、影響評価、及び開発プログラムを実施した事業所</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・21.1 生物多様性情報に関する指標（世界生物多様性枠組みのモニタリング用）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・16.7.2 国の政策決定過程が包摂的であり、かつ応答性を持つと考える人の割合（性別、年齢別、障害者及び人口グループ別）</li> <li>・17.17.1 インフラのために官民パートナーシップにコミットしたUSDルの総額</li> </ul>
				<ul style="list-style-type: none"> <li>・開示事項 304-3 生息地の保護又は復元</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・B.1 生態系が提供するサービス</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・13.1.1 10万人当たりの災害による死者数、行方不明者数、直接的負傷者数</li> </ul>
	3 鳥獣害対策を行う担い手の増加 農林水産物被害の減少	該当なし	該当なし	該当なし	該当なし	該当なし
	4 交流に携わる事業者側の雇用機会の増加			<ul style="list-style-type: none"> <li>・開示事項 203-2 重要な間接的経済影響</li> <li>・開示事項 401-1 従業員の新規雇用と離職</li> <li>GRI 401-1 新規雇用者数</li> <li>・開示事項 413-1 地域コミュニティとのエンゲージメント、影響評価、及び開発プログラムを実施した事業所</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・10.1 生産的かつ持続可能な農業が行われている農地面積の割合</li> <li>・10.2 持続可能な森林管理に向けた進捗状況</li> <li>・15.1 生物多様性に関連するリスク、依存関係、影響を開示している企業の数</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2.3.1 農業/牧畜/林業企業規模の分類ごとの労働単位あたり生産額</li> <li>・2.3.2 小規模食料生産者の平均的な収入（性別、先住民・非先住民の別）</li> <li>・8.3.1 総雇用におけるインフォーマル雇用の割合（部門、性別ごと）</li> <li>・8.5.1 労働者の平均時給（性別、年齢、職業、障害者別）</li> <li>・8.5.2 失業率（性別、年齢、障害者別）</li> </ul>

	アウトカム	情報開示基準			国際的目標	
		SSBJ	TNFD	GRI（開示事項）	昆明・モントリオール生物多様性 枠組 23ターゲット	SDGs
5	地域の農林水産物の売上増加	該当なし	該当なし	・開示事項 201-1 創出、分配した直接的経済価値 GRI 201-1 創出・分配された直接的経済価値：収益 ・開示事項 203-2 重要な間接的経済影響	・10.1 生産的かつ持続可能な農業が行われている農地面積の割合 ・10.2 持続可能な森林管理に向けた進捗状況	・1.2.1 各国の貧困ラインを下回って生活している人口の割合（性別、年齢別） ・1.2.2 各国の定義に基づき、あらゆる次元で貧困ラインを下回って生活している男性、女性及び子供の割合（全年齢） ・2.3.1 農業/牧畜/林業企業規模の分類ごとの労働単位あたり生産額 ・2.3.2 小規模食料生産者の平均的な収入（性別、先住民・非先住民の別） ・2.4.1 生産的で持続可能な農業の下に行われる農業地域の割合 ・8.5.1 労働者の平均時給（性別、年齢、職業、障害者別） ・8.5.2 失業率（性別、年齢、障害者別）
6	都市と地域の交流人口や関係人口の増加	該当なし	該当なし	・開示事項 413-1 地域コミュニティとのエンゲージメント、影響評価、及び開発プログラムを実施した事業所 GRI 413-1 地域コミュニティとのエンゲージメント、インパクト評価、開発プログラムを実施した事業所の割合	・10.1 生産的かつ持続可能な農業が行われている農地面積の割合 ・10.2 持続可能な森林管理に向けた進捗状況 ・21.1 生物多様性情報に関する指標（世界生物多様性枠組みのモニタリング用） ・12.1 都市の建築面積に占める、すべての市民が利用できる緑地/水辺空間の平均割合	・16.7.2 国の政策決定過程が包摂的であり、かつ応答性を持つと考える人の割合（性別、年齢別、障害者及び人口グループ別） ・17.17.1 インフラのために官民パートナーシップにコミットしたUSドルの総額
短期						
21	就農人材以外の農村で働く多様な人口の増加	該当なし	該当なし	・開示事項 413-1 地域コミュニティとのエンゲージメント、影響評価、及び開発プログラムを実施した事業所 ・開示事項 203-2 重要な間接的経済影響	・A.1 生態系のレッドリスト ・A.2 自然生態系の範囲 ・1.1 生物多様性を考慮した空間計画によってカバーされている陸地および海域の割合	・8.3.1 総雇用におけるインフォーマル雇用の割合（部門、性別ごと） ・8.5.1 労働者の平均時給（性別、年齢、職業、障害者別） ・8.5.2 失業率（性別、年齢、障害者別）
22	作業の人件費の削減	該当なし	該当なし	・開示事項 203-2 重要な間接的経済影響 ・開示事項 201-1 創出、分配した直接的経済価値	・10.1 生産的かつ持続可能な農業が行われている農地面積の割合 ・10.2 持続可能な森林管理に向けた進捗状況	・2.4.1 生産的で持続可能な農業の下に行われる農業地域の割合 ・8.2.1 就業者一人当たりの実質GDPの年間成長率
23	気象データを活用した栽培管理システムを導入する農家の増加	・気候関連の機会 — 気候関連の機会と整合した資産又は事業活動の数値及びパーセンテージ	・C7.3 自然関連の機会に向けた投資 — 自然関連の機会に向けた資本支出・投資額	・開示事項 201-2 気候変動による財務上の影響及びその他のリスクと機会	・10.1 生産的かつ持続可能な農業が行われている農地面積の割合 ・10.2 持続可能な森林管理に向けた進捗状況	・9.4.1 付加価値の単位当たりのCO2排出量 ・13.1.1 10万人当たりの災害による死者数、行方不明者数、直接的負傷者数 ・13.2.2 年間温室効果ガス総排出量

	アウトカム	情報開示基準			国際的目標	
		SSBJ	TNFD	GRI（開示事項）	昆明・モントリオール生物多様性 枠組 23ターゲット	SDGs
7	離農者等の食い止め 新規就農者等の増加	該当なし	該当なし	該当なし	該当なし	該当なし
8	農林水産業者所得の増加	該当なし	該当なし	<ul style="list-style-type: none"> <li>・開示事項 201-1 創出、分配した直接的経済価値 GRI 201-1 分配した経済価値：事業コスト、従業員給与と諸手当、資本提供者への支払い、政府への支払い（国別）、コミュニティ投資</li> <li>・開示事項 203-2 重要な間接的経済影響</li> <li>・開示事項 401-1 従業員の新規雇用と離職 GRI 401-1 新規雇用者数</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・10.1 生産的かつ持続可能な農業が行われている農地面積の割合</li> <li>・10.2 持続可能な森林管理に向けた進捗状況</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1.2.1 各国の貧困ラインを下回って生活している人口の割合（性別、年齢別）</li> <li>・1.2.2 各国の定義に基づき、あらゆる次元で貧困ラインを下回って生活している男性、女性及び子供の割合（全年齢）</li> <li>・2.3.1 農業/牧畜/林業企業規模の分類ごとの労働単位あたり生産額</li> <li>・2.3.2 小規模食料生産者の平均的な収入（性別、先住民・非先住民の別）</li> <li>・2.4.1 生産的で持続可能な農業の下に行われる農業地域の割合</li> <li>・8.5.1 労働者の平均時給（性別、年齢、職業、障害者別）</li> <li>・8.5.2 失業率（性別、年齢、障害者別）</li> </ul>
9 中期	交流に携わる事業者側の所得 の増加	該当なし	該当なし	<ul style="list-style-type: none"> <li>・開示事項 203-2 重要な間接的経済影響</li> <li>・開示事項 401-1 従業員の新規雇用と離職 GRI 401-1 新規雇用者数</li> <li>・開示事項 413-1 地域コミュニティとのエンゲージメント、影響評価、及び開発プログラムを実施した事業所</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・10.1 生産的かつ持続可能な農業が行われている農地面積の割合</li> <li>・10.2 持続可能な森林管理に向けた進捗状況</li> <li>・15.1 生物多様性に関連するリスク、依存関係、影響を開示している企業の数</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2.3.1 農業/牧畜/林業企業規模の分類ごとの労働単位あたり生産額</li> <li>・2.3.2 小規模食料生産者の平均的な収入（性別、先住民・非先住民の別）</li> <li>・8.3.1 総雇用におけるインフォーマル雇用の割合（部門、性別ごと）</li> <li>・8.5.1 労働者の平均時給（性別、年齢、職業、障害者別）</li> <li>・8.5.2 失業率（性別、年齢、障害者別）</li> </ul>
10	地域への移住者の増加 地域での新たな事業の創出や 就業人口の増加	該当なし	該当なし	<ul style="list-style-type: none"> <li>・開示事項 413-1 地域コミュニティとのエンゲージメント、影響評価、及び開発プログラムを実施した事業所</li> <li>・開示事項 203-2 重要な間接的経済影響</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・A.1 生態系のレッドリスト</li> <li>・A.2 自然生態系の範囲</li> <li>・1.1 生物多様性を考慮した空間計画によってカバーされている陸地および海域の割合</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・17.17.1 インフラのために官民パートナーシップにコミットしたUSドルの総額</li> </ul>
11	地域での多様な人材との関わり の増加	該当なし	該当なし	<ul style="list-style-type: none"> <li>・開示事項 413-1 地域コミュニティとのエンゲージメント、影響評価、及び開発プログラムを実施した事業所</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・21.1 生物多様性情報に関する指標（世界生物多様性枠組みのモニタリング用）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・12.8.1 (i) 地球市民教育及び(ii)持続可能な開発のための教育が、(a) 各国の教育政策、(b) カリキュラム、(c) 教師の教育、及び(d) 児童・生徒・学生の達成度評価に関して、主流化されているレベル</li> <li>・16.7.2 国の政策決定過程が包摂的であり、かつ応答性を持つと考える人の割合（性別、年齢別、障害者及び人口グループ別）</li> <li>・17.17.1 インフラのために官民パートナーシップにコミットしたUSD総額</li> </ul>

	アウトカム	情報開示基準			国際的目標	
		SSBJ	TNFD	GRI（開示事項）	昆明・モントリオール生物多様性 枠組 23ターゲット	SDGs
12	都市住民の地域での自然体験活動の増加	該当なし	該当なし	<ul style="list-style-type: none"> <li>・開示事項 304-3 生息地の保護又は復元 GRI 304-3 保護もしくは復元された生息地の規模と所在地</li> <li>・開示事項 413-1 地域コミュニティとのエンゲージメント、影響評価、及び開発プログラムを実施した事業所</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・B.1 生態系が提供するサービス</li> <li>・21.1 生物多様性情報に関する指標（世界生物多様性枠組みのモニタリング用）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・6.6.1 水関連生態系範囲の経時変化</li> <li>・15.1.1 土地全体に対する森林の割合</li> <li>・15.1.2 陸生及び淡水性の生物多様性に重要な場所のうち保護区で網羅されている割合（保護地域、生態系のタイプ別）</li> <li>・15.2.1 持続可能な森林経営における進捗</li> <li>・15.b.1(a) 生物多様性の保全と持続的な利用に係るODA及び(b) 生物多様性関連の経済的手段から生み出された収入と資金</li> </ul>
24 中期	異常気象に備えた栽培環境の実現	<ul style="list-style-type: none"> <li>・気候関連の機会</li> <li>— 気候関連の機会と整合した資産又は事業活動の数値及びパーセンテージ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・C7.3 自然関連の機会に向けた投資</li> <li>— 自然関連の機会に向けた資本支出・投資額</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・開示事項 201-2 気候変動による財務上の影響及びその他のリスクと機会</li> <li>・開示事項 305-5 温室効果ガス排出量の削減</li> </ul>	該当なし	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2.4.1 生産的で持続可能な農業の下に行われる農業地域の割合</li> <li>・9.4.1 付加価値の単位当たりのCO2排出量</li> <li>・13.1.1 10万人当たりの災害による死者数、行方不明者数、直接的負傷者数</li> </ul>

	アウトカム	情報開示基準			国際的目標	
		SSBJ	TNFD	GRI（開示事項）	昆明・モントリオール生物多様性 枠組 23ターゲット	SDGs
長期	13 農山漁村の総所得の増加	該当なし	該当なし	<ul style="list-style-type: none"> <li>・開示事項 201-1 創出、分配した直接的経済価値 GRI 201-1 創出・分配された直接的経済価値：収益</li> <li>・開示事項 203-2 重要な間接的経済影響</li> <li>・開示事項 302-4 エネルギー消費量の削減</li> <li>・開示事項 305-5 温室効果ガス排出量の削減</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・10.1 生産的かつ持続可能な農業が行われている農地面積の割合</li> <li>・10.2 持続可能な森林管理に向けた進捗状況</li> <li>・15.1 生物多様性に関連するリスク、依存関係、影響を開示している企業の数</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2.3.1 農業/牧畜/林業企業規模の分類ごとの労働単位あたり生産額</li> <li>・2.3.2 小規模食料生産者の平均的な収入（性別、先住民・非先住民の別）</li> <li>・2.4.1 生産的で持続可能な農業の下に行われる農業地域の割合</li> <li>・8.2.1 就業者一人当たりの実質GDPの年間成長率</li> <li>・9.4.1 付加価値の単位当たりのCO2排出量</li> </ul>
	14 遊休農地の発生防止 農山漁村環境の保全 森林の多面的機能の維持・向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・気候関連の物理的リスク—気候関連の物理的リスクに対して脆弱な（vulnerable）資産又は事業活動の数値及びパーセンテージ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・C7.1 自然関連の物理的リスクに対して脆弱と評価された資産・負債・収益・費用の価値</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・開示事項 304-1 保護地域又は生物多様性価値の高い地域に所有、賃借、管理している事業拠点</li> <li>・開示事項 304-2 事業活動、製品、サービスの生物多様性への著しい影響 GRI 304-2 生物多様性への重要な影響（生物種、地域の範囲、期間）</li> <li>・開示事項 304-3 生息地の保護又は復元</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・A.1 生態系のレッドリスト</li> <li>・A.2 自然生態系の範囲</li> <li>・1.1 生物多様性を考慮した空間計画によってカバーされている陸地および海域の割合</li> <li>・2.1 修復対象区域</li> <li>・B.1 生態系が提供するサービス</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2.4.1 生産的で持続可能な農業の下に行われる農業地域の割合</li> <li>・13.1.1 10万人当たりの災害による死者数、行方不明者数、直接的負傷者数</li> <li>・15.1.1 土地全体に対する森林の割合</li> <li>・15.1.2 陸生及び淡水性の生物多様性に重要な場所のうち保護区で網羅されている割合（保護地域、生態系のタイプ別）</li> </ul>
	15 CO2吸収量の増加等によるGHG排出量の削減	<ul style="list-style-type: none"> <li>・気候関連の機会—気候関連の機会と整合した資産又は事業活動の数値及びパーセンテージ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・C7.3 自然関連の機会に向けた投資—自然関連の機会に向けた資本支出・投資額</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・開示事項 304-3 生息地の保護又は復元 GRI 304-3 保護もしくは復元された生息地の規模と所在地</li> <li>・開示事項 305-5 温室効果ガス排出量の削減 GRI 305-5 排出量削減の取り組みによる直接的な結果として削減されたGHG排出量、計算に用いたガス、基準年 または 基準値およびそれを選択した理論的根拠、GHG排出量が削減されたスコープ。</li> <li>・開示事項 413-1 地域コミュニティとのエンゲージメント、影響評価、及び開発プログラムを実施した事業所</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・B.1 生態系が提供するサービス</li> <li>・21.1 生物多様性情報に関する指標（世界生物多様性枠組みのモニタリング用）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2.4.1 生産的で持続可能な農業の下に行われる農業地域の割合</li> <li>・6.6.1 水関連生態系範囲の経時変化</li> <li>・13.1.1 10万人当たりの災害による死者数、行方不明者数、直接的負傷者数</li> <li>・13.2.2 年間温室効果ガス総排出量</li> <li>・15.1.1 土地全体に対する森林の割合</li> <li>・15.1.2 陸生及び淡水性の生物多様性に重要な場所のうち保護区で網羅されている割合（保護地域、生態系のタイプ別）</li> <li>・15.2.1 持続可能な森林経営における進捗</li> <li>・15.b.1 (a) 生物多様性の保全と持続的な利用に係るODA及び(b) 生物多様性関連の経済的手段から生み出された収入と資金</li> </ul>

	アウトカム	情報開示基準			国際的目標	
		SSBJ	TNFD	GRI（開示事項）	昆明・モントリオール生物多様性 枠組 23ターゲット	SDGs
長期	16 農山漁村の景観や文化の保護 自然災害等の防止	該当なし	・C7.3 自然関連の機会に向けた投資_自然関連の機会に向けた資本支出・投資額	・開示事項 203-2 重要な間接的経済影響 ・開示事項 302-4 エネルギー消費量の削減 ・開示事項 304-3 生息地の保護又は復元 ・開示事項 304-4 IUCNレッドリスト及び国内保全リストに掲載されている種 ・開示事項 305-5 温室効果ガス排出量の削減 ・開示事項 413-1 地域コミュニティとのエンゲージメント、影響評価、及び開発プログラムを実施した事業所	・A.1 生態系のレッドリスト ・A.2 自然生態系の範囲 ・1.1 生物多様性を考慮した空間計画によってカバーされている陸地および海域の割合 ・10.1 生産的かつ持続可能な農業が行われている農地面積の割合 ・10.2 持続可能な森林管理に向けた進捗状況 ・B.1 生態系が提供するサービス ・15.1 生物多様性に関連するリスク、依存関係、影響を開示している企業の数	・2.4.1 生産的で持続可能な農業の下に行われる農業地域の割合 ・9.4.1 付加価値の単位当たりのCO2排出量 ・11.4.1 すべての文化及び自然遺産の保全、保護及び保存における総支出額（資金源別（公的部門、民間部門）、遺産のタイプ別（文化、自然）、政府レベル別（国、地域、地方、市） ・12.8.1 (i)地球市民教育及び(ii)持続可能な開発のための教育が、(a)各国の教育政策、(b)カリキュラム、(c)教師の教育、及び(d)児童・生徒・学生の達成度評価に関して、主流化されているレベル ・13.1.1 10万人当たりの災害による死者数、行方不明者数、直接的負傷者数 ・15.1.1 土地全体に対する森林の割合 ・15.1.2 陸生及び淡水性の生物多様性に重要な場所のうち保護区で網羅されている割合（保護地域/生態系のタイプ別）
	17 農林水産業者の余暇時間の増加 ストレスの減少	該当なし	該当なし	・開示事項 403-6 労働者の健康増進	・B.1 生態系が提供するサービス	・2.4.1 生産的で持続可能な農業の下に行われる農業地域の割合 ・3.4.1 心血管疾患、癌、糖尿病、又は慢性の呼吸器系疾患の死亡率 ・3.4.2 自殺率
	18 地域住民/都市住民双方のソーシャルキャピタルの維持・向上	該当なし	該当なし	該当なし	該当なし	該当なし
	19 都市住民の身体的・精神的健康増進	該当なし	該当なし	・開示事項 403-6 労働者の健康増進 ・開示事項 413-1 地域コミュニティとのエンゲージメント、影響評価、及び開発プログラムを実施した事業所	・B.1 生態系が提供するサービス ・21.1 生物多様性情報に関する指標（世界生物多様性枠組みのモニタリング用）	・3.4.1 心血管疾患、癌、糖尿病、又は慢性の呼吸器系疾患の死亡率 ・3.4.2 自殺率 ・16.7.2 国の政策決定過程が包摂的であり、かつ応答性を持つと考える人の割合（性別、年齢別、障害者及び人口グループ別） ・17.17.1 インフラのために官民パートナーシップにコミットしたUSDの総額

	アウトカム	情報開示基準			国際的目標	
		SSBJ	TNFD	GRI（開示事項）	昆明・モントリオール生物多様性 枠組 23ターゲット	SDGs
長期	20 地域人口減少の抑止 公的なインフラサービスの維持・ 拡大	<ul style="list-style-type: none"> <li>・気候関連の機会</li> <li>— 気候関連の機会と整合した資産又は事業活動の数値及びパーセンテージ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・C7.3 自然関連の機会に向けた投資</li> <li>— 自然関連の機会に向けた資本支出・投資額</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・開示事項 203-1 インフラ投資および支援サービス GRI 203-1 インフラ投資や支援サービス（規模、コスト、継続期間）</li> <li>・開示事項 203-2 重要な間接的経済影響</li> <li>・開示事項 302-4 エネルギー消費量の削減</li> <li>・開示事項 305-5 温室効果ガス排出量の削減</li> <li>・開示事項 413-1 地域コミュニティとのエンゲージメント、影響評価、及び開発プログラムを実施した事業所</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・A.1 生態系のレッドリスト</li> <li>・A.2 自然生態系の範囲</li> <li>・1.1 生物多様性を考慮した空間計画によってカバーされている陸地および海域の割合</li> <li>・10.1 生産的かつ持続可能な農業が行われている農地面積の割合</li> <li>・10.2 持続可能な森林管理に向けた進捗状況</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・9.4.1 付加価値の単位当たりのCO2排出量</li> <li>・11.1.1 スラム、インフォーマルな居住地及び不適切な住宅に居住する都市人口の割合</li> </ul>
	25 技術システムの導入等気候変動対策への再投資	該当なし	該当なし	<ul style="list-style-type: none"> <li>・開示事項 305-5 温室効果ガス排出量の削減</li> <li>・開示事項 302-4 エネルギー消費量の削減</li> <li>・開示事項 201-2 気候変動による財務上の影響及びその他のリスクと機会</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・10.1 生産的かつ持続可能な農業が行われている農地面積の割合</li> <li>・10.2 持続可能な森林管理に向けた進捗状況</li> <li>・15.1 生物多様性に関連するリスク、依存関係、影響を開示している企業の数</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2.4.1 生産的で持続可能な農業の下に行われる農業地域の割合</li> <li>・9.4.1 付加価値の単位当たりのCO2排出量</li> <li>・13.2.2 年間温室効果ガス総排出量</li> </ul>